ことづての声／ソマの舟

The Voice of Lore / Soma's Boat

ふるさかはるか

Haruka Furusaka
Solo Exhibition

2023年11月4日［土］～11月25日［土］

13時から19時まで　水・木休廊 / 入場無料

＊11月18日［土］は18時まで　＊11月23日［木・祝］は開廊

協力：信陽堂編集室

関連イベント 【 座談会 】

『ことづての声／ソマの舟』の編集者・丹治史彦さん（信陽堂編集室）をお迎えし、作品集の制作にまつわるお話しから、取材地の山の手仕事についてお話しします。マタギ薬「鳥っこ止まらず」のお茶を飲みながら、山の命と関わる人びとの言葉に触れてみましょう。

終了しました ~~11月18日［土］18時～20時　入場料1000円　定員25名（予約優先）~~

※予約・詳細はギャラリー・パルクWebサイト（www.galleryparc.com）にて

［Web］

Gallery PARC
GRAND MARBLE

602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287 堀川新文化ビルヂング 2階
075-334-5085 | info@galleryparc.com | www.galleryparc.com

木版画家・ふるさかはるかは、1999年武蔵野美術大学油絵学科卒業後、2002年よりフィンランド、ノルウェーなどでのレジデンス・発表をはじめ、様々な土地を訪れるなかでその地の暮らしや風土を知り、そこを端緒に木版画を制作しています。

木や土など、その土地の自然素材を得て制作するふるさかの木版画は、そのプロセスにおいて素材から自然や暮らしを「汲み取る」行為であるといえ、「自然と共に生きる人びとのことばや手仕事」を眼差し、自身の手仕事（版画制作）や他者の手仕事を通じて「人が自然から何を読み取り、協調しているのか」について知り・確かめる行為として、取材から木版画制作におよぶ一連に取り組んでいます。

2017年よりふるさかは、津軽・南部地方で山の人びととその手仕事を取材し、何気ないことばを聞き取りながら、彼らの「山の命との向き合い方」に眼差しを向けてきました。ふるさかは彼らが自然とどのように向き合い、そこから何を読み取り、それが手仕事にどのように表れ、人と自然の関係性への洞察がことばにどのように表れているのかについて、彼らのことばと手仕事を自らの手で理解しようと、土を拾い藍を育てて絵具を作り、木片の形に導かれながら自然の色・形・摂理と呼応するように版木を彫り、作品をつくってきました。

その成果はギャラリー・パルクでの2022年の個展「積層の器　ことづての声」において発表され、2023年11月にはさらなる取材や制作を経て、作品集『ことづての声 ／ ソマの舟』として出版されました。
本展はこの作品集の出版に合わせ、所収された木版画やドローイングの原画作品をはじめ、取材先で撮影したピンホールカメラによる写真作品や資料などを展示するとともに、完成した書籍をご覧いただく機会となります。

本展「ことづての声 ／ ソマの舟」は、「自然と人間との関わり」を考える上で、そこに暮らす人々の「ことば・手仕事」をその接点として眼差したふるさかが、自らも「ことばを紡ぎ・手を動かす」ことでそこに理解を超えた「共感」を得て制作した作品と書籍によって構成されます。
鑑賞者はふるさかが触れてきたことばや手仕事だけでなく、ふるさか自身のことばや手仕事に触れる中で、ここに新たな「共感」を体験いただけるのではないでしょうか。

※会期中の11月18日には「座談会」として、ふるさかの作品制作にまつわるお話しとともに、作品集の編集者・丹治史彦さん（信陽堂）をお迎えし、作品集の制作や取材にまつわるお話しを伺います。ぜひご参加ください。

The Voice of Lore / Soma's Boat

南津軽で始まった山の手仕事の取材が、6年の歳月を経て本になった。

山の命と直接関わるマタギ（猟師）やソマ（木こり）や漆掻き（樹液を採集する人）は、冬の厳しい北国で動植物からどんなサインを読み取り、どう自然とやりとりするのか。

山のことばに導かれ、取材地をたずね歩いて記録した。

そうたずね歩くうち、藍と漆とヒバと土とが私の手元に託された。

山のことばと素材に呼応し、私も彼らの手振りをまねび木版画を作りたい。

ヒバの香を嗅ぎ、藍の葉が青に変わるのを見、漆にかぶれるのを肌で覚えながら、山の命と関わる手段を引き寄せるために。

ふるさかはるか

［作家略歴］

ふるさかはるか（木版画家）

土と藍から自作した絵具と、版木の持つ自然な色・形に着目した木版画を作る。ノルウェーなど北国での滞在制作・発表のかたわら各地の山の手仕事を訪ね、近年では自然と共に生きる人びとの言葉や手仕事をテーマにした作品に取り組んでいる。展覧会『トナカイ山のドゥオッジ』では、北欧の先住民族サーミの人びとを取材した木版画シリーズを発表。2017年国際芸術センター青森での展覧会『土のことづて』を機に青森での取材を重ねてきた。2010年「木版画アトリエ空中山荘」を立ち上げ、美術館等でのワークショップを通して手仕事と絵画の要素をあわせ持つ木版画の魅力を伝える取り組みも行っている。

harukafurusaka.net | kucyusansou.com

［書籍情報］

作品集『ことづての声／ソマの舟』

山の命と直接関わる手仕事の人びとが動植物からどんなサインを読み取り協調しているかを取材した作品集。南津軽の山で出会ったマタギ（猟師）暮らしやソマ（木こり）の漆塗りの笛の話をきっかけに、南部地方の漆掻き職人とその道具を作る鍛冶屋まで訪ね歩いた。「ことづての声」には取材したインタヴューとピンホール写真、ドローイング、「ソマの舟」にはインタヴューをもとに執筆したエッセイと木版画を収め、呼応する二つの記録と考察を一冊にまとめた。管啓次郎氏（詩人／比較文学者）、登久希子氏（人類学研究者）による寄稿文も収録。取材地の漆の木と樹液を使って手刷りした「漆木版画」付き。

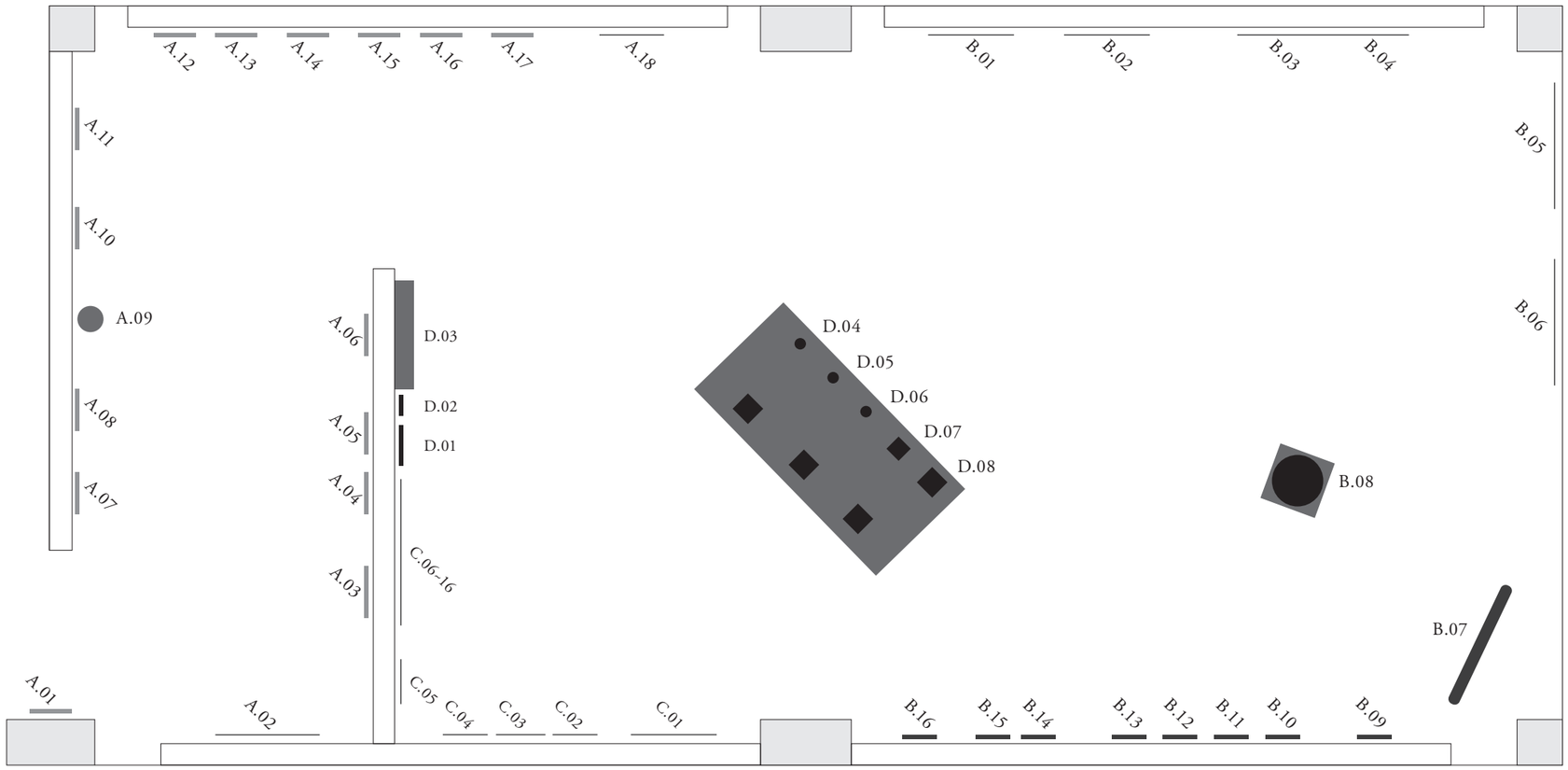
作品集『ことづての声／ソマの舟』（600部限定・税込6,050円）**は、本展会場やギャラリー・パルクのオンラインストアでもお買い求めいただけます。**

［store］

Work List

○印の作品は販売可能、× 印の作品は非売、△印の作品は応相談。

詳しくは別紙プライスリストをご覧いただくか、スタッフにお声がけください。



A.01	虹貝川	2023	フィルム写真	180×184	○
A.02	〈ことづての声〉ことづて	2022	シルクスクリーン, インク, 紙	660×975	×
A.03	岩木山登山口	2022	フィルム写真	248×248	○
A.04	山中繁敏さんの笛	2022	フィルム写真	190×190	○
A.05	お山参詣 御幣	2022	フィルム写真	190×190	○
A.06	滝の沢 居土	2023	フィルム写真	180×184	○
A.07	山中泰彦さん	2023	フィルム写真	190×190	○
A.08	巻狩り	2023	フィルム写真	190×190	○
A.09	漆の木				×
A.10	漆林 梯子	2022	フィルム写真	180×184	○
A.11	漆林 光	2022	フィルム写真	180×184	○
A.12	漆林 八月	2022	フィルム写真	190×190	○
A.13	鈴木健司さんと漆林	2022	フィルム写真	190×190	○
A.14	斜陽	2018	フィルム写真	190×190	○
A.15	中畑文利さんの鍛冶工房	2022	フィルム写真	180×184	○
A.16	中畑文利さん	2023	フィルム写真	190×190	○
A.17	山中繁敏さんの漆掻き道具とキセル	2023	フィルム写真	190×190	○
A.18	〈ことづての声〉ヒバと漆	2023	ドローイング, 藍, 土, 紙	455×380	○

B.01	〈ソマの舟〉命を止めて食べる器 A vesel in which you partake of life where life has been taken	2023	木版, 藍, 土, 紙	392×565	○
B.02	〈ソマの舟〉光の話　A lore of light	2023	木版, 藍, 土, 紙	392×565	○
B.03	〈ソマの舟〉山かけと懺悔 Yamakake and repentance	2023	木版, 藍, 土, 紙	565×772	○
B.04	〈ソマの舟〉山かけと懺悔 Yamakake and repentance	2023	木版, 藍, 土, 紙	565×772	○
B.05	〈ことづての声〉ことづての声	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	1120×870	△
B.06	〈ことづての声〉積層の器	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	1120×870	△
B.07	収穫した藍				×
B.08	藍から抽出した顔料				×
B.09	〈ソマの舟〉梨の木 Pear tree	2020	木版, 藍, 土, 紙	227×176	○
B.10	〈ソマの舟〉笛 Flute	2021	木版, 藍, 土, 水彩, 紙	183×234	○
B.11	〈ソマの舟〉斜陽 The setting sun	2022	木版, 藍, 土, 紙	183×234	○
B.12	〈ソマの舟〉漆掻き Lacquer tapping	2022	木版, 藍, 土, 紙	325×320	○
B.13	〈ソマの舟〉薪と炭 Firewood and charcoal	2022	木版, 藍, 土, 紙	325×320	○
B.14	〈ソマの舟〉光の話 A lore of light	2023	木版, 藍, 土, 紙	298×237	○
B.15	〈ソマの舟〉夜営 Night camp	2018	木版, 藍, 土, 紙	298×237	○
B.16	〈ソマの舟〉Ancestor	2020	木版, 藍, 土, 紙	210×150	○

C.01	〈ことづての声〉巻狩り	2023	ドローイング, 藍, 土, 紙	380×455	○
C.02	〈ことづての声〉山かけの笛	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	330×240	○
C.03	〈ことづての声〉樹液	2022	ドローイング, 藍, 紙	330×240	○
C.04	〈ことづての声〉漆掻き	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	330×240	○
C.05	〈ことづての声〉積層の器	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	330×240	○

上段左から

C.06	〈ことづての声〉ソマのソリ	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○
C.07	〈ことづての声〉層を積む	2019	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○
C.08	〈ことづての声〉湧き起こる	2019	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○
C.09	〈ことづての声〉ことばの器	2019	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○
C.10	〈ことづての声〉湧き起こる	2019	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○
C.11	〈ことづての声〉ことづての声	2020	ドローイング, 藍, 土, 紙	186×136	○

下段段左から

C.12	〈ことづての声〉宵山登山	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	227×162	×
C.13	〈ことづての声〉漆林	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	227×161	○
C.14	〈ことづての声〉湧き起こる／年輪	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	227×160	○
C.15	〈ことづての声〉畏怖	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	227×159	○
C.16	〈ことづての声〉漆の木	2022	ドローイング, 藍, 土, 紙	227×158	○

D.01	〈ソマの舟〉薪と炭 Firewood and charcoal	2023	版木	×
D.02	〈ソマの舟〉光の話 A lore of light	2023	版木	×
D.03	青森で収集した土／藍の顔料			×
D.04	今年人さんが掻いた漆（漆の木の版画の色材）			×
D.05	山中泰彦さんに切り出してもらった漆の木			×
D.06	漆の版木			×
D.07	漆の木の版画			×

D.08　作品集『ことづての声／ソマの舟』

2023年11月3日発行

21.0 × 18.0 cm　224p.　600部　¥6,050

付録：手刷り漆木版画　ソマ・山中繁敏氏の笛の音声（しおり）

語り：山中泰彦（マタギ・木地師）　鈴木健司（漆掻き・塗師）　中畑文利（鍛冶屋）

執筆：ふるさかはるか　管啓次郎　登久希子

写真：ふるさかはるか　上條泰山　草木貴照　中川浩佑　麥生田兵吾

デザイン：須山悠里

編集・制作：丹治史彦（信陽堂）　井上美佳（信陽堂）

発行：空中山荘

発売：信陽堂

本展展示作品や作品集などはいずれも
ギャラリー・パルクのオンラインストアからもご購入いただけます。

［store］

本書の編集・制作を担当いただいた信陽堂さんが出版されている書籍や、
本書に原稿執筆いただいた管啓次郎氏の著書などをあつめたミニコーナーを、
1階・大垣書店内に設置しております。こちらもぜひご覧ください。